

東京理科大 学報



TOKYO
UNIVERSITY OF
SCIENCE

2023 July
Vol.
230

TUS Journal

科学と
社会の間に
なにがある？



1	特集 教育最前線 教養のススメ
3	新しい教養の始まり。 教養教育研究院 院長 野田キャンパス教養部 市村 志朗 教授
5	ジェンダーを考える。 教養教育研究院 葛飾キャンパス教養部 西倉 実季 教授
7	Labo Scope
8	理大人
9	STUDENT LABO
10	STUDENT ACTIVITY
11	TUS YELL
12	学長室だより
13	TOPICS & INFORMATION

物華天宝

人らしい動き

単純な人工物の動きでも、それが人らしく見えることがある。ロボット掃除機が障害物に近づいたとき、センサが作動し短い間隔で行ったり来たりすると、困っているように見えたりする。文学における擬人法のように、我々は、動物はもちろん、物に対しても、人っぽさをしばしば見いだす。特に動きに関してはこの感覚は敏感であるように思われる。「人らしい動き」とは何だろうか。映画やアニメ、エンターテインメントでは、いわゆる「ロボット歩き」は「人らしくない」動きの代表として実演される。一方、人の身体各部に反射マーカ―を付け、光学式モーションキャプチャという装置で運動を計測した後、黒地に動くこれらの点を見るだけで、我々は明らかに人が動いていると分かる。筆者は人型ロボットの制御や人の運動解析の研究に従事しているが、実はこれが深淵な問題で、学会等では現在も熱い議論が交わされている。「人らしさ」の認識には、人の脳による認知系に加え、動き自体が持つ、数学的に表現される「特徴量」の両方が深く関わっていると思われる。現在取り組んでいる、人の動きの人型ロボットによる再現や、機械学習による人の運動の特徴理解・生成の研究を通じて、この問いの答えに少しでも近づきたいと考えている。

先進工学部 機能デザイン工学科 教授 吉田 英一

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

4 質の高い教育を
みんなに



5 ジェンダー平等を
実現しよう



今回の「特集」は、持続可能な開発目標 (SDGs)「質の高い教育をみんなに」「ジェンダー平等を実現しよう」の関連教育です。

教養が 科学と社会を つないでる。

特集 教育最前線 教養のススメ

科学者も、市民である。

社会で働き、生きていくために、

科学以外の知識、教養は欠かせない。

しかし、必要なものという捉え方は

少し古い考え方になってきた。

むしろ、科学者がしっかりとした

キャリアを重ね、社会の役に立つために、

積極的に活用するべきものとして

教養が捉えられ始めている。

理科大の教養教育が変わりつつある。

その最前線を見てみよう。

新しい教養の始まり。

「TUSくさび形教養教育」を中心に、時代の要請に応える教養教育を推進する。

REPORT 01

特集 教育最前線



教養教育研究院 院長
野田キャンパス教養部

市村志朗 教授

専門分野は、スポーツ科学、運動生理学、衛生学公衆衛生学。スポーツのゲーム分析、身体活動時の骨格筋のエネルギー代謝、人の健康増進についてなどの研究を行っている。担当科目は、「健康・スポーツ科学」、「健康スポーツ(実技)」など。

教養と専門の有機的な連携へ、教養教育研究院。

多様化、複雑化する現代において、教養教育の重要性を聞く機会が増えてきた。倫理的な思考や異文化への理解を広げてくれるものとして、また、問題解決力や創造性を備えた人材を育てるものとして、さらには生涯学習の必要性とともに取り上げられることもある。そうした議論を待つまでもなく、東京理科大学では、2021年4月に「教養教育研究院」を立ち上げ、これからの社会で活躍できる人材を育てるための、新しい教養教育が動き出している。教養教育研究院は、「正解のない課題に対しても積極的に挑むための判断力・行動力の育成」、「多様な価値観を持つ人材とコミュニケーションを取れる能力」など、理科大における教養教育の目標達成のために、教養と専門が有機的

に連携し、並列した教育を展開することで、優れた専門性を補完する能力を学生に獲得させることを目指している。そのために、教養教育の在り方の検討、教員の専門分野に係る研究の推進、新たな教育プログラムの導入などを実施することで、教養教育・研究の持続的発展と質の向上を実現しようとしている。

3年生以降も続くくさび形教養教育、新しい教養が進行中。

理科大において、これまでも教養教育が行われてきたことは言うまでもないが、新しい教養教育の大きな違いは、くさび形教養教育の導入である。入学から2年生までに一般教養科目の履修を終え、3年生以降は専門の勉強に専念するというこれまでのカリキュラムに対して、3年生以降で一般教養科目4単位以上の取得が義務づけられた。市村教授は言う「単純に教養教育が4年生まで延びたと思ってほしくはないです。10代の終わりから20代初めの学生は、すごいスピードで成長していきます。その成長段階のところで、必要なことは少しずつ違っていきはじります。変わっていく興味の対象、高度化していく知識、そうしたことにしっかりと対応していきたいというのが、くさび形教養教育の考え方です」。くさび形教養教育はカテゴリー分けがされていて、2年生以降で取得できるカテゴリーにおいては、教養教育研究院の各教員に

よる最先端の研究にも触れることができ、より高度な内容となっているのが特長だ。「理学や工学を学ぶ学生たちが、自分の専門分野とその他の知識や思考を合わせることでなにかが起ることを期待しています。それは逆にいうと、学生自身が目標を定め、自分自身で学びをプログラミングしていく幅が広がったということだと思います」と市村教授。

人間的なスキルを磨くために欠かせない教養。

教養教育研究院では、より多彩な知識を学生たちに届けるために、知のフロンティアというセミナーを定期的に開催している。これは、学内外の専門家を招いて、学生を中心に教職員も参加できる、より自由な学びの機会となっている。これまでに、『科学技術とアート』『翻訳のリアルと最先端』などのセミナーが開催されてきた。市村教授は言う「理科大の中にも、理学や工学以外の学修の機会が多く用意されています。それに対して、専門ばかりをやって

いと良くないから、教養もあつたほうがいいという話を聞くことがありますが。しかし、そういう考え方で教養教育は設計されていません。その証拠に、これだけは学びなさいというような科目は決められていないのです。あくまでも、一人ひとりの学生が自分に必要なものを学び取っていく。そのために、人を理解したり、自分と違う立場や考え方に触れることができる、教養という学びを活用してほしいと思います。新しい教養教育は始まったばかりだ。そのカリキュラムの中で育った卒業生はまだいない。それでも、理学や工学の力を、これまで以上に社会に支持されるものにしたという、前向きな思いが強く伝わってきた。



「健康スポーツ(実技)」の授業の様子。



学生に開放されているトレーニング室。



オンラインによるセミナーの様子。

ジェンダーを
考える。

見えているようで
見えていない、
社会の中の性別をめぐる
現象を解き明かす。

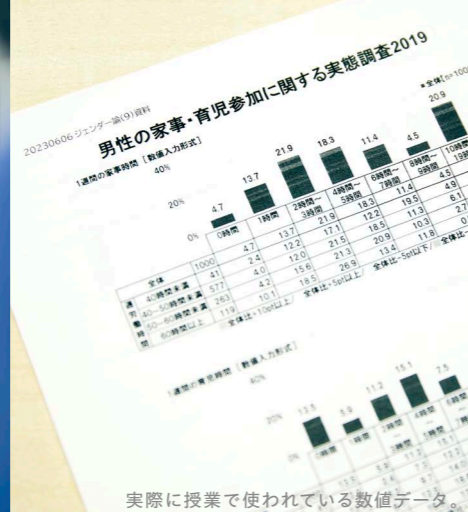


教養教育研究院
葛飾キャンパス教養部
西倉実季 教授

専門分野は、社会学、ジェンダー論。
外見を理由にした差別や美的労働についての研究、
ライフストーリー研究などを行っている。
担当科目は、「社会学」、「現代社会学」、
「ジェンダー論」、「教養演習」など。

数値データや資料から
ジェンダーを
客観的に理解する。

東京理科大学の授業に、「ジェンダー論」があることを知っている人は、そう多くないだろう。しかし、ある。しかも、賑わっている。教室の座席は、ほとんど



実際に授業で使われている数値データ。

学生で埋まっていた。西倉教授が担当する一般教養科目の「ジェンダー論」は、社会を構成するシステムのうち、特に家族、教育、市場に注目し、それぞれの中でジェンダー（性別をめぐる現象のうち社会的なもの）がどのようにつくられているのか、そして、それらのジェンダーがどのように関連しているのかを考察している。さらに、恋愛や性行動など、日常生活の中でジェンダーがどのように作用しているのかについても扱っているという。その授業の特徴は、「講義では、各自の思い込みを取り払うために、数値データや各種資料を提示しながら社会の現状を把握することを意識しています。たとえば教育について、一見、男女平等に見える学校においても、ジェンダー役割がつけられており、そのことが女子の理系嫌いや高等教育進学率の男女間格差につながっていることをさまざまなデータをもとに検証します」と西倉教授。

他の人の価値観に
触れるために
ディスカッションを重視。

授業の中で、もうひとつ大切にしているのは、自分とは別の考え方、感じ方に触れることだという。そのために、毎時間、グループで話し合う時間を設けたり、期末レポートについては2人組で推敲をしながら時間を設けている。西倉教授は言う「自分が意図したことを他者に伝えるのは、なかなか難しいもの

です。自分の評価と相手の評価が違うということを経験してもらおうと思っています。それはつまり、他者の視点や価値観を知ることにつながっていきます。ジェンダーの問題をはじめ、社会には見えにくく、ないことにされがちな問題が少なくありません。それに気付く人が増えれば、人々は解決に向けて行動し、社会は変わっていきます。そのために、自分の立場を絶対視せず、他の見方や考え方を受け入れる練習をしてほしいと思います。こうした授業を受けた学生たちの反応を聞いてみると、「普段、学生たちが勉強している自然科学とは違って、自分自身の人生とか生き方が学問的探究の対象になるので、自分の暮らしを良くしていく身近な学問であると体感してくれていると感じています。また、女子高だったので男子と違う扱いを受けたことはないと思っていただけ、雇用や社会保障の仕組みなど、個人を超えたところで個人の人生を水路づける社会構造があることが分かったという学生がいて、大きな視点で自分の人生を見渡すことができたというコメントは嬉しかったですね」と西倉教授。

あらゆる問題の
理解に役立つ
社会的想像力。

「ジェンダーの問題はもちろんのこと、なにかの問題が生じたときに、それがどんなに個人的な問題に見えようと



西倉教授が執筆したり、参加している書籍。

も、社会的な構造との関係において捉える力、「社会的想像力」を身につけることが大切です。それによって、いたずらに自分を責めたり、自己責任論によって他者を非難して終わることは避けられるのではないかと考えています」と西倉教授。その社会的想像力を世の中の他の問題に対して働かせるうえでも、データに基づいてさまざまな事象を読み解いたり、他者の価値観を理解することは有効だ。西倉教授は言う。「対岸の火事のように思える社会問題であっても、事実を踏まえて考えてみたり、他の人と意見を交換してみたりできるようなことは、学生が将来、さまざまな場所で多様な人と関わり、科学者や技術者としての力量を発揮するうえで役に立つはずですよ」。理学や工学を学び、研究する理科大とは、また違った姿がここにはある。しかし、同じような熱量に触れることができたことを、とても頼もしく感じた。



学生たちのディスカッションの様子。

Labo Scope

vol. 36

DNAからRNAへ、RNAからタンパク質へ。という、生物に共通したセントラルドグマを解き明かす。



研究推進機構 生命医科学研究所

櫻井 雅之 准教授

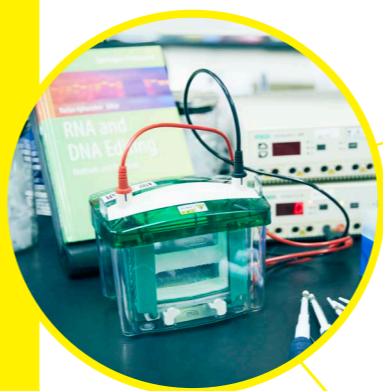
masayuki sakurai

DNA、RNAの編集機構を明らかにすることで老化や病気、ウイルスへの対策を確立する。

セントラルドグマとは、生物に共通した遺伝子の発現までの情報の流れである。すなわち、遺伝子配列原本であるDNAからRNAがコピーとして転写され、これから遺伝子の暗号が翻訳されて酵素や抗体などのタンパク質がつくられる。この基本の流れがすべての生物における生命現象を担っているからこそ、セントラルドグマは非常に不思議なシステムといえる。その一方で、遺伝子配列だけでなく、セントラルドグマの緻密な制御機構が種や個体の差を生み出している。ヒトにおいても、個人間あるいは個人の体の部位間、発生から老化の時系列、または病態によって、遺伝子の発現に差があることで細胞に違いが生じ、それがときに老化や病気につながっている。そうした仕組みを解明しようというのが櫻井研究室である。「DNAやRNA、タンパク質を配列情報や量の増減から調べるだけでは分かりませんが、これらもまた化学分子であることに注目し、その質の変化をみることで初めて明らかになる遺伝子発現制御機構、これを解明していきたいと考えています」と櫻井准教授。その質の変化で現在注目している生命現象が、DNA、RNAの編集機構である。

PROFILE

2001年 東京大学工学部化学生命工学科卒業。2006年 東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程修了。2010年 学振海外特別研究員、米国フィラデルフィアのWistar Instituteへ。2018年 東京理科大学生命医科学研究所講師、2022年より現職。専門は、分子生物学、ゲノムRNA編集病理学。



Pick Up!

実験室には、核酸・タンパク質などの発現状況を調べる多くの装置がある。



「Labo Scope」は本学YouTubeチャンネルでもご覧いただけます。*櫻井准教授は後日公開予定。

櫻井准教授は言う「遺伝子の原本であるはずのゲノムDNAには記載されていませんが、発生から分化、成長して老化、環境や刺激への応答や病変、このような状況に対応して遺伝子発現が必要となるときに、体の中では新たに遺伝子の配列を変換し、タンパク質の機能や細胞の状態が変化することがあります。その仕組みはブランクボックスとされている部分が多く、一見無駄であったり、複雑であったりしますが、調べてみて初めてそれが精巧で合理的なものだと分かることが多く、好奇心をかき立てられます」。このような研究は、老化の仕組み、がんや遺伝子変異疾患の解明、ウイルスに対する免疫機構と関わり、それらへの医学的な対策にもつながるといえる。この研究の難しさは、研究の手法についても同時に考えていかなくてはならないところだそう。特にこの分野では新しい生命現象や疾患原因の発見には、新しい技術の開発が欠かせません。技術がないから未発見であった、ということが多くあります。技術開発と発見、そして解明と医学利用、異なるアプローチそれぞれが大切です」と櫻井准教授。また、解明していく遺伝子の編集が関与する生命現象は幅広く、時には新しい分野に挑戦することが求められる研究だといえる。それだけに、常に学び続けて方向性や計画の吟味が必要になるそう。櫻井研究室で進んでいる研究が、今後どの分野で大きく花開くのか、期待をしながら待ちたいと思う。



人の心を揺さぶるニュースを届けることで、企業とメディア、生活者をつなぎ、好循環を生む。

企

業や団体などが、自社の商品やサービス、イベントなどを発表する公式資料であるプレスリリースは、かつては報道関係者だけに渡されたり、自社のHPで発表するのが一般的だった。山口さんが代表を務めるPR TIMESでは、さまざまな企業がプレスリリースを配信するプラットフォームを運営し、メディアはもちろん、一般の人でもサイト上で気軽に情報収集できるようにしている。「プレスリリースの起源は、1906年、ペンシルバニア鉄道の脱線事故の公式発表資料だと言われています。その文書は、新聞を通して、多くの人に正しい情報として届きとても意義のあるものでした。私たちも、企業とメディア、そして、その先の生活者へ。社会が必要としている有益なニュースや行動者発の情報が一人

ひとりの、そして世の中の心を揺さぶることができればと思います」と山口さん。サービス開始当初は、9割以上が飛び込み営業で獲得していたという契約企業は、今では累計約8万社、そのほとんどがお客さま主導による契約だという。また、朝日、産経、毎日、読売などの主要全国紙のデジタル版とも提携。まさにネタの宝庫となっている。今後は「PR TIMESを、日本の社会的な情報インフラ、世界有数のインターネットサービスと呼ぶに相応しいサービスに成長させていきたいです。また、主軸のPR TIMESを超える事業に挑戦する人が、次々と出てくるような企業にしていきたいです」と語る。大学時代、理工学部の経営工学科に所属していたという山口さん。入学当初に出会った9人の仲間が、生涯の

友として今でも交流があるそうだ。決して優秀な学生ではなかったと謙遜する山口さんだが、卒業後、異分野に就職したり、転職をしていく中で、改めて、学び続ける大切さを痛感しているという。「挑戦には、失敗があるが、実験には失敗はない。想定していない結果になったとしても、それは新たな発見になる。どんなことも実験だと思っ取り組んでほしい」。異分野で結果を残し続けてきた山口さんらしいポジティブなメッセージだ。



▲プレスリリース配信サービス「PR TIMES」

理大人 RIPAHIITO

各界で活躍する卒業生を紹介

山口 拓己さん

株式会社 PR TIMES 代表取締役社長

PROFILE

東京理科大学工学部経営工学科卒業後、山一證券株式会社に入社。アビームコンサルティング株式会社等を経て、株式会社ベクトルに入社。取締役CFOに就任。CFO在任中の2007年、プレスリリース配信サービス「PR TIMES」を立ち上げサービスを開始。株式会社PR TIMES代表取締役社長に就任。現在に至る。



「理大人」は本学HPでも公開しています。



留学生の気持ちに寄り添い、
将来につながる学生生活を支援。
会員700人にも上る
国際コミュニティ。

東京理科大学 留学生会



メンバーの雷声越さんが考案したオリジナルキャラクターの「レポート子」

東京理科大学には現在、800人近くの留学生が在籍する。日本の学びや文化に触れる毎日が刺激的である一方、慣れない環境に対する不安があることは確かだろう。2012年に理学部第一部に中国からの留学生として入学し、現在は社会人学生として理学研究科に在籍する李さんは、自身の留学時の体験を生かし、理科大の留学生を支援する「留学生会」を発足したメンバーの一人だ。「留学生生活で苦労したのは、日本語での理学の勉強です。慣れない言語で知識を習得するのは想像以上に大変でした。大学では週に1回ほど、日本人学生と近況を報告し合う交流プログラムを受けていたのですが、留学生同士で気軽に相談したり情報

を共有できる場がほしいと思い、留学生の友人たちと支援活動を始めました。活動当初は、中国人留学生を中心に声をかけたり、クチコミやSNSで会員を増やし活動を広げた留学生会。20人ほどだった会員も現在では学生の国籍も広がり、卒業生を含め約700人にも上る。順調に活動していた留学生会だが、コロナ禍ではその活動にも影響があったそうだ。「対面での活動に制限があったため、オンラインでできる企画を考えるようになりました。メンバーから、会議などで司会進行を行うバーチャルキャラクターや留学生会のオリジナルキャラクターを制作したり、試験前などにいつでも参加できる「Zoom自習室」を開くなどの案が挙がり、非対面でも

交流のモチベーションを絶やさない企画を続けました」。以前と変わらないコミュニケーションの質を意識する中で、新たな課題も見つかったという。「コロナ禍を通して、留学生の心のケアについて考える機会が増えました。オンライン活動などを通して感じたのは、やはり会話の重要性です。対面できない状況下でも留学生同士で気軽に悩みを相談ができる場が必要と思い、キャラクターが窓口になるチャット相談室を設けました。今後も留学生が無理なく有意義な学生生活を送れるアイデアを考えていきたいです」と李さん。日本人学生との交流を深める「東京理科大学キャンパスメイト」も始動し、国際コミュニティの拡大が今後も期待できそうだ。

Voice!

貴重な留学生生活。
自分の進路が広がる学びを
一緒に深めましょう。

2018・2019年度 会長
李子騫さん
(理学研究科
科学教育専攻博士後期課程 3年)



100人近くの留学生が参加し賑わう、留学生会主催の新入生歓迎会



STUDENT LABO

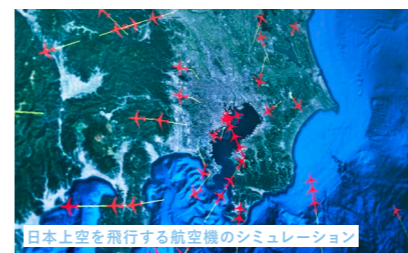
#25

機械学習とルールに基づいた
航空交通システムを構築し、
日本の「空の渋滞」を解消したい。

工学研究科 情報工学専攻 博士後期課程2年
藤井・松尾・立川研究室
2022年より 日本学術振興会 特別研究員(DC1)

関根 将弘さん

新型コロナウイルスの影響により、ここ数年は、旅客需要が大幅に減少してしまった。とはいえ、日本上空を飛行する航空機の数は、とても多い。中でも、国際線・国内線両方のターミナルを持つ羽田空港は、世界屈指のbusyな空港として知られている。そのため、着陸待ちの航空機が上空を旋回したり、目的地まで遠回りをして時間調整をするケースが頻発している。関根さんは、そんな空の渋滞が解消できればと、航空機の効率的な運用ルールを見いだす研究をしている。「これまでは、



日本上空を飛行する航空機のシミュレーション

空の交通整理といえば、管制官の経験や勘に委ねられることが多かったのですが、国際線の便数も増え、航空機が急増したこともあり、2004年くらいから学術的な視点での研究も始まりました。私の研究では、セルオートマトンというシミュレ-

ションモデルを用いてコンピュータ上で航空機の離陸スケジュールを調整させたり、途中で減速したりすることで、遅延時間や消費燃料にどのような影響があるのかを調べています。その過程で羽田空港周辺の渋滞を解消するために、いろいろなパターンを試しながら理想的なスケジュールや減速速度を探っています」と関根さん。これまでの研究により、西から羽田に向かう航空機を愛知県や紀伊半島付近で適切に減速させることで、遅延時間を大幅に削減できることも分かってきたそうだ。また、理想的なスケジュールや減速速度を示すだけでなく、その裏側にある管制官にとって理解可能な運用ルールを提示することこそが、実務者の判断の基盤になるという。実際に、機械学習による分析から、管制官の担当区域ごとに意識すべき点が異なることも知見として得られているという。関根さんは現在、国の航空交通施策を担う電子航法研究所や東京大学の先端科学技術研究センターとも研究を行っており、3カ所を行き来する生活が続いている



関根さんも出版に協力をしたという書籍
「航空交通管理システム概論」(伊藤恵理著:コロナ社)

という。幼少期から「交通」と「最適化」に興味があり、将来はこの2つを組み合わせ社会に貢献できるような研究がしたいと考えていたという関根さんだが、本研究の成果をまとめた、提案アルゴリズムが、2025年以降いよいよ社会実装される可能性があるのだという。関根さんの、強い思いが、実現するかもしれないと思うと、ワクワクが止まらない。

Voice!

思いついたことは何でも試す！
期待通りの結果が出たときは、
とても嬉しいですよ！





やりたいことを
好きなだけ。
奨学金が挑戦への
モチベーションに。

理学部第一部 応用物理学科2年
島尻 和慶さん
kazuyoshi shimajiri

— 理科大の奨学金 —
新生のいぶき奨学金

本制度は、意欲のある学生が、経済的困窮を理由に進学を断念することのないよう、自宅からの通学が困難な学生を対象に経済的支援を行うことを目的とした給付型奨学金制度です。詳細、その他の奨学金制度に

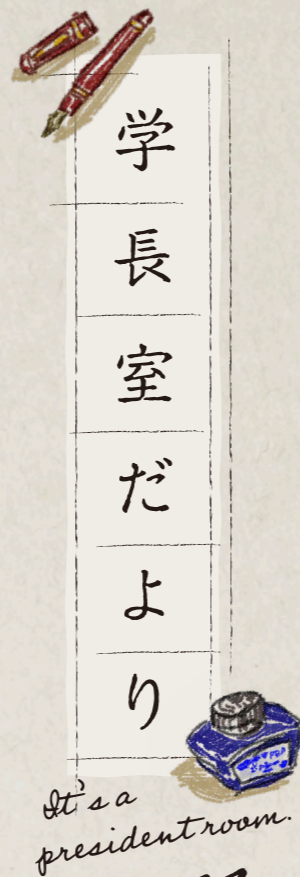


ついては本学HPで紹介しています。



応用物理学科で力学について学ぶ島尻さんの地元は、沖縄県の石垣島。高校時代、数学の楽しさについて教えてくれた担任の先生の出身校である東京理科大学を目指したという。理科大への入学と上京の後押しになったのが「新生のいぶき奨学金」だ。「東京の大学で学業や趣味など、やりたいことに思う存分励みたいと思い、家族と相談して理科大への進学を決めました。奨学金で大学の教材や生活費

を補うことができるため、サークル活動や幼い頃から続けているピアノにも打ち込むことができます」と島尻さん。今後はピアノの演奏中の動作解析など、ピアノと力学に着目した新しい分野の研究に挑戦してみたいそうだ。「奨学金は学生生活の可能性を広げてくれます。これからも学業と趣味の両方に全力で取り組み、自分の将来をさらに豊かなものにできるように活用していきたいと思います」。



It's a
president room.
Vol.77

学長
石川 正俊

新たな自分を見つける夏。

チャレンジから生まれる未来の価値

大 学も夏休みを迎えます。夏休みは、学生の皆さんにとって、自分の思いで過ごせる自由な時間です。大学の学びや活動を深めたり、自分の世界を磨いたりするのもよいし、大学とは全く違う世界に飛び込んだり、新たなことにチャレンジしたりして、自分の中に潜んでいる能力を引き出し、新しい自分を見つけることもできると思います。

大学の夏休みは、普段の学びとは違って、皆さんが自分の力で自分を成長させる時間だと思えます。その際、社会でメジャーになっていることに時間を使うか、社会がまだ気付いていないことに時間を使うかはよく考えるべきポイントです。みんなが学んでいるから、みんなが興味を持っているから、みんなが良いと言っているから、といった社会の流れをつかんで行動することも一つの考え方で、自分が好きだから、自分は面白いと思うから、難しそうだから、他の人が手を付けていないからといった社会の流れとは違った行動を起こすことも一つの考え方はあります。

この両者は、どちらがよいというものではなく、長い目でみれば両者とも経験することが重要です。大学の夏休みということを考えると、後者、すなわち人が考えていないことにチャレンジする機会をぜひ持ってほしいと思います。社会の情報化が進む中で、社会がどう動いているかわかむことより、社会がまだ考えていないことを見つけていることの方が難しくなっています。独創的な研究、成功するベンチャーや事業を起こすことの難しさは、言葉ではあまり伝わらず、実際に体験して初めて身につくものです。私は、今の社会では「違いが価値を生む」と考えています。もちろん、違うことにチャレンジする限り、うまくいかないことが出てきます。でも、うまくいかないことの中に、次の価値が潜んでいることもあるし、逆に、うまくいっていることが、この先もうまくいくとは限りません。自分がそのことを見極める目を持っているかどうか、やろうとしたことを実行する力を持っているかどうかが問われます。

そのためには、何度もチャレンジすることが大切で、失敗してもそれが正しい失敗であれば、けがのない経験になります。正しい失敗とは、開始する時点で集めた知識や情報から、チャレンジする価値があると判断したものにトライしたけれど、実行してみても初めて分かったことがあってうまくいかなかった場合などが相当します。結果が分かっていたら、論評は後出しじゃんけんして意味をなしません。さあ夏休みです。小さなことでよいので、今までの自分になかったことにチャレンジしてみませんか。違いの中から新たな自分を見つけていくことにつながると思います。



2022年度決算報告

TOPICS 03

2022年度事業活動収支計算書の経常収入計は、予算比24億3,516万円増の383億2,516万円です。これに対して経常支出計は予算比2億913万円減の345億4,666万円であるため、経常収支差額は37億7,850万円の収入超過となります。

特別収入計は予算比4,059万円減の4億9,310万円、特別支出計は予算比9,663万円増の3億6,993万円であるため、特別収支差額は1億2,317万円の収入超過となります。この結果、基本金組入前当年度収支差額は39億167万円の収入超過となります。



詳細は本学HPでご確認ください。

2022年度事業活動収支計算書

(単位：百万円)

経常収入	予算	決算	経常支出	予算	決算	経常収支差額	予算	決算
学生生徒等納付金	25,887	25,813	人件費	15,694	15,755	経常収支差額	1,134	3,779
手数料	1,611	1,634	教育研究経費	16,047	15,711	特別収入	533	493
寄付金	450	624	管理経費	2,830	2,895	特別支出	273	370
経常費等補助金	3,365	3,983	借入金等利息	185	185	特別収支差額	260	123
付随事業収入	2,985	2,934	その他	0	0	予備費	300	
受取利息・配当金	800	2,216	経常支出計	34,756	34,546	基本金組入前当年度収支差額	1,094	3,902
その他	792	1,121						
経常収入計	35,890	38,325						

2023 OPEN CAMPUS

INFORMATION 01

2023年度オープンキャンパスの事前申し込みの受付を開始しました。「対面型」と「オンライン(ライブ配信)型」の複合形式で実施を予定しています。



詳細は本学HPでご確認ください。

葛飾キャンパス 8/9 (水) 神楽坂キャンパス 8/10 (木) 野田キャンパス 8/11 (金・祝)

維持拡充資金(第二期) 寄付者芳名

「維持拡充資金(第二期)」にご賛同いただき、ご寄付を賜った方々のご芳名を掲載します。今回は、2023年2月1日～2023年4月30日までにご入金いただいた分です。ご芳名は区分別・金額別・五十音順ですが、区分で重複する方はいずれか一つに掲載させていただきました。累計は維持拡充資金(第二期)の寄付額です。

お問い合わせ先 東京理科大学募金事業事務局
TEL:03-5228-8723 FAX:03-3260-4363
email:bokinjigyo@admin.tus.ac.jp

- 【個人】
 - <同窓生>
 - ◇金2,000,000円 森田 純恵様 (累計金3,000,000円)
 - ◇金1,000,000円 金子 榮三様 (累計金7,050,000円)
 - ◇金300,000円 吉田 武史様 (累計金5,500,000円)
 - ◇金200,000円 葛田 正雄様 (累計金2,940,000円)
 - ◇金100,000円 大久保 隆一様 (累計金150,000円)
 - ◇金90,000円 守屋 茂様 (累計金2,670,000円)
 - ◇金50,000円 伊澤 卓司様 (累計金400,000円)
 - ◇金40,000円 犬田 章様 (累計金85,000円)
 - ◇金30,000円 上田 克己様 (累計金190,000円)
 - ◇金20,000円 鴻巣 良三様 (累計金150,000円)
 - ◇金15,000円 齊藤 秀子様 (累計金230,000円)
 - ◇金10,000円 田島 英幸様 (累計金320,000円)
 - ◇金5,000円 平田 治夫様 (累計金105,000円)
 - ◇金30,000円 坂田 康雄様 (累計金140,000円)
 - ◇金10,000円 新矢 哲康様 (累計金350,000円)
 - ◇金8,000円 八谷 武司様 (累計金151,000円)
 - ◇金7,000円 深澤 昭彦様 (累計金530,000円)
 - ◇金6,000円 松村 成樹様 (累計金180,000円)
 - ◇金5,000円 鷲木 保男様 (累計金290,000円)
 - ◇金4,000円 山崎 一信様 (累計金620,000円)
 - ◇金3,000円 内山 拓哉様 (累計金55,000円)
 - ◇金2,000円 宮代 和恵様 (累計金465,000円)
 - ◇金1,000円 岡田 一成様 (累計金465,000円)
 - ◇金1,000円 高橋 昌之様 (累計金102,000円)
 - ◇金1,000円 高橋 慎様 (累計金58,000円)
 - ◇金1,000円 松原 永長様 (累計金55,000円)
 - ◇金1,000円 吉田 幸央様 (累計金474,000円)
 - ◇金1,000円 松田 良一様 (累計金131,000円)
 - ◇金1,000円 匿名1名
- ◇金50,000円 稲場 宏様 (累計金60,000円)
- ◇金350,000円 匿名1名 <教職員>
- ◇金350,000円 西川 英一様 (累計金2,350,000円)
- ◇金50,000円 森田 泰介様 (累計金760,000円)
- ◇金30,000円 五十嵐 保隆様 (累計金970,000円)
- ◇金20,000円 宇津 栄三様 (累計金2,610,000円)
- ◇金15,000円 堀 洋一様 (累計金270,000円)
- ◇金10,000円 匿名1名
- 【団体】
 - ◇金4,927,224円 東京理科大学留学生 援護会様
 - ◇金3,205,000円 個人59名 (累計金532,223,507円)
 - 【法人】
 - ◇金1,000,000円 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社様 (累計金3,000,000円)
 - ◇金200,000円 株式会社ツリーベル様 (累計金300,000円)
 - ◇金50,797円 東京理科大学消費生活協同組合様 (累計金28,139,262円)
- 入金額(2023年2月1日～2023年4月30日)
 - 【個人】6,699,000円(61名)
 - 【団体】4,927,224円(1件)
 - 【こうよう会】3,205,000円(64件)
 - 【法人】1,250,797円(3社)
- 2022年度 寄付総額(2022年4月1日～2023年3月31日)
 - 【個人】187,360,000円
 - 【団体】7,752,214円
 - 【こうよう会】32,843,000円
 - 【法人】212,650,797円

次号予告 東京理科大学報 TUS Journal Vol.231

特集 教育最前線 社会課題の解決を考える

- 夏のオープンキャンパス開催報告
- 長万部学生寮生活紹介

学報(TUS Journal)のバックナンバーは本学HPで公開しています。



TOPICS & INFORMATION

東京理科大学の最新ニュースと情報をお届けします！

2023.SUMMER

第6回 東京理科大学物理学園賞表彰式を開催(6/14)

TOPICS 01

6月14日(水)に、東京理科大学物理学園賞表彰式が行われ、浜本理事長より受賞者へ表彰状が授与されました。本賞は、本学の卒業生(本法人が設置していた大学等を含む)及び専任教職員の退職者のうち、本法人の名誉を高め、発展に寄与していただいた方に対し、その功績を称えることを目的として2018年に創設したもので、第6回となる今年度は、東京工業大学 科学技術創成研究院 化学生命科学研究所 教授 西山 伸宏氏が受賞されました。



西山 伸宏 氏 (写真中央)



受賞者のご経歴、コメントなど詳細は本学HPでご確認ください。

北海道と東京をつなぐ空間ゲートウェイ『tonari』を導入

TOPICS 02



北海道・長万部キャンパスの様子



富士見校舎の様子

今般、空間ゲートウェイ『tonari』を「北海道・長万部キャンパス」と「富士見校舎」に導入しました。tonariの導入は、教育業界では本学が初めてです。tonariは、等身大のスクリーンを介して2つの空間をつなぐ、常時接続*の全く新しいコンセプトによるコミュニケーションツールです。オンライン会議特有の映像・音声の遅延によるストレスが無く、壁一面のスクリーンに高画質の映像を投影し、遠近の違いを音で理解できる設計が施され、同じ空間にいるように一緒に過ごすことができます。今年度から経営学部国際デザイン経営学科(IDM)の1年生は北海道・長万部キャンパスでの全寮制生活をスタートしましたが、

tonariを通じて距離を超えた学年間の交流を促し、2拠点をつなぐ新たなラーニング・コモンスの実現を目指します。体験した学生からは「学生ラウンジに行けば東京のキャンパスにつながっているのが面白いです！授業の課題や先生の話先輩に聞けることや、趣味の話気軽にできるのが嬉しいです。(1年生)」 「tonariを通して長万部とつながって、1年生と話せるのが不思議な気分です。1年生が画面越しにスマホの長万部キャンパスの写真を見せてくれましたが、まったく離れている感じがしません。(3年生)」などの感想がありました。

*午前8時から午後8時

